

ラスゴンセーフティ(K)

RUSGON SAFETY (K)

一般名称	鉛・クロムフリーさび止めペイント			
適用規格	鋼道路橋防食便覧(2005):鋼道路橋塗装用塗料標準 鉛・クロムフリーさび止めペイント			
系統	長油性フタル酸樹脂さび止め塗料			
主な用途	【橋梁用】			など
適用素材	鉄	亜鉛めっき	アルミ	ステンレス
	○	×	×	×
特長	1)鉛・クロム等重金属を含有しない。 2)70 μ mまでの厚塗りが可能である。 3)刷毛・ローラー作業性に優れている。 4)上塗塗料との付着性が良い。 5)淡彩色等の調色が可能である。			
塗料性状	塗料密度(比重)	1.52(グレー)		
	溶剤密度(比重)	0.81		
	加熱残分	77%(グレー)		
法令など	一液			
	劇物表示 (品名・含有率)	—		
	労安法上の 表示有害物	キシレン、エチルベンゼン		
	使用有機 溶剤種別	第3種有機溶剤等		
	消防法による 危険物区分	可燃性液体類		
	硬化剤の成分 による区分	—		
	ホルムアルデヒド 放散等級	F☆☆☆☆(放散量0.12mg/L以下)		
製品情報	一液			
	荷姿	20kg		
	混合比(重量比)	—		
	主な色(色相)	赤さび色(09-40Lやや黄味近似)、グレー(N-7近似)、ダークグレー(N-5.5近似)、白(N-93近似)、淡彩色		
素地調整	○被塗面は十分乾燥させ、汚れ等の不純物の付着がなく、清浄であること。 ○水洗により塩分、水溶性汚染物質を除去する。適切な洗浄剤や溶剤で、油やグリースを除去する。 ○詳細は塗装仕様書を参照ください。			
使用方法	調合方法	オートマゼールなどの動力攪拌機を用いて、十分ほぐしたのち使用する。		
	熟成時間	不要		
	使用シンナー	塗料用シンナーA		
	希釈率(重量比)	エアレス: 0~10wt% ハケ・ローラー: 0~10wt% (弊社推奨値)		
	エアレススプレー	2次圧	10MPa(100kg/cm ²)以上	
	塗装条件	チップNo.	163-515~619 (日本グレイ社製)	

ラスゴンセーフティ(K)

RUSGON SAFETY (K)

使用量と膜厚

塗装方法	標準膜厚		標準使用量 注)
	Dry(μm)	Wet(μm)	g/m ² /回
エアレススプレー	35	75	170
ハケ塗り	35	75	140

注)標準塗付量は、個々の条件によって異なります。

乾燥時間 塗装間隔 可使用時間

項目		5℃	10℃	20℃	30℃	40℃	
乾燥時間	指触	1時間	40分	30分	20分	15分	
	半硬化	4時間	3時間	2時間	1時間	1時間	
標準塗装間隔 注)	最短	1日					
	最長	10日(6ヶ月)					
可使用時間		—	—	—	—	—	

注)上記数値は施工管理上の参考データです。規格に規定がある場合はそれを優先してください。

実施工においては塗膜異常がないことを確認したのちに、次工程塗装してください。下記の主な適用上塗塗料を塗り重ねる場合です。
塗装間隔は【鋼道路橋防食便覧 塗装編】による。

作業禁止条件 気温 5℃以下、湿度(RH%)85以上

主な適用	強溶剤: メタラクトH15
下塗塗料	弱溶剤: — ハイソリッド: — 水性: —
主な適用	強溶剤: —
上塗塗料	弱溶剤: SDマリンセーフティ中塗 ハイソリッド: — 水性: —

耐熱温度(大気バクロ環境) 短時間 120℃耐用、長時間 80度耐用
(短時間とは、概ね1時間以内を目安としてください。)

施工管理
用特数値

希釈率(wt%)	SVR(%)	WET/DRY係数
0	56.8	1.8
5	52.0	1.9
10	47.9	2.1

【理論WET膜厚】=【目標膜厚】÷【SVR】 式または
【理論WET膜厚】=【目標膜厚】×【WET/DRY係数】式で
希釈率毎の管理WET膜厚が算出できます。
※SVR(Solid Volume Ratio)体積固形分であります。

安全情報

- 安全情報に関する詳細な内容はSDS(安全データシート)をご参照ください。
- 容器に記載している「安全衛生上の注意事項」をご確認の上、ご使用ください。
- 塗料が皮膚につくと人によってはカブレを起こすことがあるので、皮膚につかないように取り扱いください。

貯蔵条件

高温多湿環境・直射日光を避け、密閉した状態で冷暗所で保管ください。

使用上の
注意事項

- 1)塗膜は十分に乾燥させてから上塗りしてください。乾燥が不十分な状態で塗り重ねるとチヂミを生じることがあります。
- 2)浮きさびやルーズな黒皮、旧塗膜面の発錆や塗膜の浮きなどは十分に除去して塗装してください。
- 3)被塗面の異物(研削材、ダスト、油脂汚れ、水分)や粉化物などは塗装前に除去してください。
- 4)耐水性が十分でないので、没水部では使用できません。
- 5)塗料の取り扱いについての一般的な注意事項の詳細は、SDS(安全データシート)を参照してください。